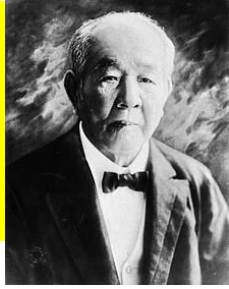
日本資本主義の父

# 渋沢栄一と会津

雅号、青淵（せいえん）



天保十一年（一八四〇）二月十三日生
昭和六年（一九三一）十一月十一日没
九十一歳

武蔵国榛沢郡血洗島村（現埼玉県深谷市血洗島）で渋沢市郎右衛門元助長男として誕生。

農民から江戸幕府の武士となり、慶応二年（一八六六）十二月、江戸幕府の家臣となり、一八六七年にはパリ万国博覧会に将軍の名代として出席した徳川慶喜の異母弟・徳川昭武（水戸徳川家十一代）の随員としてわたっている。

民部省の役人を経て、大蔵少輔吉田清成らと共に造幣、戸籍、出納などの政策立案をし、初代紙幣頭、大蔵省大蔵少輔事務取扱になる。

井上馨と共に第一国立銀行（みずほ銀行）、東京商法会議所（東京商工会議所）、東京証券取引所などの設立と経営をする。また、多くの経済団体の設立や経営に関わる。さらに、東京養育院などの福祉事業、東京慈恵会等の医療事業、商法講習所（一橋大学）、大倉商業学校（東京経済大学）などの実業教育、東京女学館等の女子教育、台湾協会学校（拓殖大学）の設立をする。

二松學舍（二松学舎大学）第三代舎長に就任し私学教育支援、理化学研究所設立や研究事業支援、国際交流、民間外交の実践などに尽くした。東京都北区西ヶ原の王子飛山邸（記念館がある）で死去。

## 磐越西線と渋沢栄一

明治二十五年、二歳下の弟が白虎隊の石田和助の福島県知事日下義雄は、地域発展のため鉄道は不可欠との思いから渋沢栄一に相談。渋沢は、地元の資産家や自らも出資して株主を募り岩越鉄道を設立、明治三十六年まで取締役だった。鉄道はその後、明治三十九年に官設鉄道岩越線に、大正六年には磐越西線と名称が変更になっている。明治三十四年に若松駅で演説。

福島県では、白河で楽翁公遺徳顕彰会長を務め、大正十一年には南湖神社が完成している。

## 事業に関わった会社

東京貯蓄銀行（りそな銀行）、石川島播磨造船所（ＩＨＩ・いすゞ自動車）、秀英社（大日本印刷）、中外物価新報（日本経済新聞）、東京海上保険会社（東京海上日動火災保険）、日本鉄道会社（東日本旅客鉄道）、清水組（清水建設）、足尾鉱山組合（古河機械金属・富士通）澁澤倉庫部（渋沢倉庫）、帝国劇場（東宝）、養育院（東京都健康長寿医療センター）、博愛社（日本赤十字社）など多数に及ぶ。

渋沢栄一の墓は、東京都台東区の谷中墓地内にひときわ大きく南東部一角にある。雅号からとった「青淵（せいえん）澁澤榮一墓」。瓜生岩子が住んでいた台東区根岸からは、約四百メートルと近い場所にある。

## 瓜生岩子と渋沢栄一

明治二十四年（一八九一）三月、瓜生岩子は六十三歳の時、渋沢栄一の要請により上京、東京養育院幼童世話係長を約半年間勤めた。救護活動、女性の地位向上、日本最初のナイチンゲールと知られる岩子は、明治三十年四月十九日「菩薩の化身」として慕われ六十九歳で亡くなる。二日前には昭憲皇太后が見舞いに訪れた。墓は示眼寺に渋沢の書で建てられる。明治三十二年像建立募金には大山捨松ら三十余名があたった。

委員長　渋沢栄一（像の題字を書く）委員は、吉井幸蔵（海軍の軍人）・三島彌太郎（三島通庸長男）・後藤新平・箕浦清次郎。渋沢委員長あいさつ後、県人の河野磐州翁の演説があり、参列者は約五百人、一般参参集は数千人に及んでいる。

図・写真・文　©石田明夫2023　問合せ　TEL・Fax 0242-24-3423　090-1378-8087
メール・ホームページ　https「会津歴史観光ガイド協会」で検索。